

I 1時間の基本的な学習スタイル

	〈学習過程〉	〈学習活動〉	〈学習形態〉
共有の課題 (つくる)	① つかむ	問題・課題の提示	全体学習
	↓	「とりかかれる?」「意味がわからない人いる?」	
	↓		
	考える	考えを持つ	ペア・グループ学習 (個人作業の協同化)
	↓		
	出し合う	困りの解決	全体学習
	↓	「困ったことがある人いる?」	
	聴き合う	解法の理解	ペア・グループ学習 (疑問や課題)
	↓	多様な考えとの出会い	
	↓	「~~。どう?」 *ほかの子ども反応を見る (うなずく 首をかしげる)	
↓	「今の(自分の言葉で)もう一度言える?」		
↓	基礎・基本	(解法の確認)	
↓	学習のまとめ	全体学習	
↓	わかったこと	ペア・グループ学習	
↓	「今日のまとめは、どう書いたらいい?」 (学びの確認)		
↓	生かす	練習問題をする	ペア・グループ学習

ジャンプの課題 (深める)	② ③ つかむ	問題・課題の提示	全体学習
	↓		
	↓		
	考える	基礎・基本を活用	ペア・グループ学習 (個人作業の協同化)
	↓	思考を深める	
↓			
出し合う	困りの解決	全体学習	
↓			
聴き合う	多様な考えとの出会い	ペア・グループ学習 (解法の確認)	

II ペア・グループ学習を入れる時

ペア・グループ学習 … 個が基本 グループで意見をまとめるのではない

個の学びを充実するために他者の考えと交流する場

- ・個人作業の協同化 自分の考えを持つとき 困ったときは、自分から「どういうこと?」「どうしたらいい?」と聞く

- 疑問や課題の提示 全体の中で出された友だちの考えに対して、「どういうことだろう」という疑問や課題が浮かび上がったとき
- 解法の確認 他の考えを納得するとき その考えをグループで話す
(今の〇さんの考え、グループで話せる?)
- 学びの確認 学習した大事なことを確認するとき (どうまとめる?)

Ⅲ 単元構成

- ① 共有の課題 + 練習問題
 - ② 共有の課題 + ジャンプの課題 (教科書の数時間後の内容 スキップした課題) … 時数の短縮
 - ③ 共有の課題 + ジャンプの課題 (教科書以上のレベルの内容)
- ①②③を組み合わせて単元を構成する。

☆「0時」→「学習過程」→「マイスタディタイム」→「評価テスト」の徹底

○ 0時 (テストの見直しの時間に行く)

単元に入る前に児童のレディネスチェックし、学び直し・分かり直しをする。

- 前学年・前単元で学習した関連する内容のミニテスト (教科書の準備テストを使う)
- 基本はグループ学習

○ マイスタディタイム

- 単元の終わりに定着度のチェックをし、学び直し・分かり直しをする。
(競争ではなく、分かるようになるための時間であることを徹底する。)
- つまずきが予想される問題がある場合、説明を先にするグループをつくる
- 〇つけを自分でできるようにするために、T2 が採点コーナーにいて〇つけの様子を見て指導する
間違ったところは、自分の机にもどってやり直しをする
学び直しが必要な場合は、T1 と行う 場合によってはT2 も行う

- バッチリコース … 教科書レベルの学習の振り返りをする問題
 - チャレンジコース…教科書レベルの学習を発展させた問題
定着を図る練習問題・思考を高める問題
- * 基本はグループ学習

○単元に1つは書く活動を取り入れ、評価テストのときに書く活動の評価を行う。

単元テスト、書く活動の評価問題、レディネス問題を1時間で行う。

Ⅳ 共有の課題とジャンプの課題

共有の課題 教科書レベルの課題

ジャンプの課題 教科書をスキップした課題

教科書レベル以上の課題 … 学力テストB問題、中学校入試問題などから

共有の課題を発展させた問題を課題として選択する。

* 共有の課題は、まとめに対応する形で提示する。(～どうすればできるか。→ ～すればできる。)

* ジャンプの問題は、共有の問題の解き方を利用すれば解くことのできる問題がよい。

ジャンプの問題を解くことで、本時のまとめが定着できる問題。

本時のまとめは、共有の課題の後に書く場合と、ジャンプ問題の後に書く場合とがある。

V ノートの活用

①共有の課題 + 練習問題

ノートの枠の外に書く
できれば、5分休憩のとき

②共有の課題 + ジャンプの課題

日付	単元名 (小見出し)	まとめ 練習問題	日付	単元名 (小見出し)	ジャンプの課題 考え まとめ
問題			問題		
課題			課題		
考え			考え		
友だちの考え (よい考え)					

- ・問題は鉛筆囲み、課題は青囲み。まとめは赤囲み
- ・1時間見開き1ページを基本にする。
- ・学習プリントを使う場合は、ノートに貼り付けたりファイルに綴じ込んだりする。
- ・気づきや疑問、チェックなどを書き込み、振り返りに役立てる。「マイノート」(高学年)

VI TT指導 授業における役割

T1 授業計画・課題提示・学習形態の判断・まとめ・支援 … 全体を見通して授業を展開
個の考えをつなぐ・もどす

T1、T2で

児童の学習の進み方の把握
情報交換

T2 個別支援・黒板掲示(子どもの考えを黒板やホワイトボードに掲示)・考えの整理

- ・子どもが自ら学びに取り組むよう、支援は必要最小限にどどめる。
(学び合いが成立していないとき 参加できない子どもがいるとき)
- ・ペア・グループ学習の際は2分割し、子どもの学びを支援する(見守る)。
- ・必要に応じて児童の学習状況の情報交換をし、学習の流れを考える。
- ・(授業の途中)考えが持てない子、活動ができていない子をまとめて習熟度別指導を行う。
- ・練習問題、マイスタディータイムでの習熟度別指導を行う。
- ・視聴覚機器等を活用し、支援に生かす。(実物投影・電子黒板・大型ホワイトボード)
- ・単元や課題に応じて、少人数指導にする。(図形等の技能の定着など)

VII スキルタイム 宿題の取り組み

- ・宿題にその日の学習内容のドリル的な内容を入れ、スキルタイムで、宿題の解説、○付けやり直しを行い定着をはかる。(準備、採点T2)
- ・宿題に前単元までの内容を取り入れ、スパイラルで復習する。
- ・授業、宿題、スキルタイムの3つをやっていくことで定着させる。